

## 第9回 下野市総合計画審議会会議録

日 時	平成19年11月14日(水) 午前10時から11時50分まで
場 所	下野市役所国分寺庁舎304会議室
出席委員	中村祐司会長、須藤勇委員、伊澤剛委員、野田善一委員、伊澤敬一郎委員、高田憲一委員、柴山征吉委員、加藤芳江委員、高山トミイ委員、岡田雅代委員、大貫理委員、高山和典委員、石田文治委員、金子康法委員
欠席委員	早川進委員、中島一成委員、長光博委員、大島昌弘委員、倉井徳勇委員、小川榮一委員、吉崎賢介委員、近藤由紀子委員
出席者	広瀬市長、篠崎第一分野担当副市長、小口第二分野担当副市長、野口総務企画部長、諏訪市民生活部長、毛塚健康福祉部長、齋藤経済建設部長、川俣上下水道部長、中村議会事務局長、落合会計管理者、石田教育次長
事務局	(企画財政課) 篠崎課長、小口主幹兼課長補佐、長主幹、栃本副主幹、濱野副主幹、古口主査、坂本主事
傍聴人	なし

### 次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
- 4 閉会

閉会后、中村審議会長から広瀬市長に答申が行われた。

### 会長挨拶

秋も深まり、冬に入ろうという時期になった。今回は、パブリックコメントの結果が出てきており、基本構想案、基本計画案の確定という大詰めに入ってきた。答申についてもご議論いただきたい。今回も宜しくお願いする。

### 議事

会議録署名委員の指名

(中村会長) 会議録署名委員は、大貫委員と金子委員にお願いする。

## 1) 前回会議録の確認

- (中村会長) 前回の審議会の会議録について、修正等があれば発言をお願いします。
- (石田委員) 6~7ページにかけての私の意見で、発言が一部抜けていると思う。7ページの4行目「最後に・・・」の前に、「国土利用の推移については、これまでの用途区分前の面積から活用実績や活用計画率で観察し、見直す必要があるのではないか。」という一文を追加していただきたい。難しいのかもしれないが、国土利用計画法のなかでパラメーターとして持っていてよいと思う。
- (岡田委員) 3ページ、下から4行目の私の意見で、「いきなり用途地域を拡大・・・」を「いきなり用途地域を変更し、容積率を緩和するというではないと了解した。」と変更していただきたい。
- (石田委員) 追加して、7ページの私の意見の7行目以降の最後の文であるが、「旧国分寺町では、町独自の取り組みとして・・・どうなったのか。」をわかりやすくして、「旧国分寺町では、町独自の取り組みとして、住民参加のシステムを確立していたはずで、合併前の各町の良い取り組みは、新市計画でも取り入れてもらいたい。」と変更していただきたい。
- (中村会長) 今のご指摘のとおり修正して、前回会議録の確定とさせていただきます。

## 2) パブリックコメントに対する市の考え方について

- (中村会長) 次に、市民から寄せられたパブリックコメントの内容と対応について、事務局から説明をお願いします。
- (事務局) 参考資料について説明する。

### パブリックコメントの意見の概要と市の考え方について説明(参考資料)

- ・ パブリックコメントは、平成19年10月2日から26日までの期間で募集した。3名の方から20件のご意見を頂いた。1の資料は意見の原本であるが、参考資料は意見の概要と意見に対する市の考え方についてまとめたものである。
- ・ 意見1-1は、児童福祉・子育て支援分野で、学童保育の管理運営に関し保育時間の延長等の提案である。施策・事業の具体的提案として、今後の参考にさせていただく。
- ・ 意見2-1は、基本構想全体について、「市民からの提案を受けて検討する部門やその結果を公表する仕組みを提案する」という意見だった。市が実施する行政評価で、市民の意見を広く聞き入れていくことが可能である。
- ・ 意見2-2は、基本構想の都市基盤分野で「ガーデンシティ・緑のネットワーク構想の積極的検討を」という要望であった。緑の基本計画作成に反映する。
- ・ 意見2-3は、基本構想の保健福祉分野で「空き店舗を使用した高齢者のたまり場づくりの推進を」という提言であった。高齢者の生きがい活動の支援のなかで、実現を検討していく。

- ・ 意見 2 - 4 は、基本構想の地域社会分野で、「小学校単位でのコミュニティの再構築による活動の活性化を」という提言であった。地域活動の活性化は本計画の基本的方針であり、支援を行っていく。なお、エリアの再構築については、今後の参考とする。
- ・ 意見 2 - 5 は、基本構想の行財政分野で、「市の一定額以上の予算・事業に関して、市民自らが査定する仕組みづくりを」という提案であった。市民との協働を基調とする事務事業評価システムの構築に反映する。
- ・ 意見 2 - 6 は、基本計画の行財政分野で、「職員による問題抽出と解決方法を探らせるシステムづくりを」という提案であったが、今後の参考にさせていただく。
- ・ 意見 2 - 7 は、基本計画の高齢者の生きがいづくり分野で、「シルバー人材センターの運営改善（定年制の採用など）を」という提案であった。今後の参考にさせていただく。
- ・ 意見 3 - 1 は、基本構想で「人口の表記が不統一」というご指摘であった。有効数字 3 桁の表記に統一したい。
- ・ 意見 3 - 2 は、基本構想の都市構造イメージで、「南河内地区の地域保健福祉拠点が削除されていて、新市建設計画との整合性が認められない」とのご指摘であった。現時点で合併市としての一体性の確保に資する事業、均衡ある発展に資する事業として位置付けることが困難であるため削除することとした。
- ・ 意見 3 - 3 は、基本計画全体（事業評価）で、「事業分類別の評価の偏りが見られる」とのご指摘であった。緊急性や熟度などにより、同一の評価基準で評価したため、市民の生命や財産の保証に関わらない事業は優先度が低くなり、偏りが生じている。
- ・ 意見 3 - 4 は、基本計画全体（事業評価）で、「基幹的な新規施策・事業に対する評価が低い」とのご指摘であった。基幹的な事業であっても、熟度・緊急性・改善の余地などにより評価を行っている。
- ・ 意見 3 - 5 は、基本計画全体（事業評価）で、「現在検討中の基幹的な新規施策などについて予算配分されない可能性がある」とのご指摘だが、毎年度の見直しや外的状況の変化により優先度を見直していく。
- ・ 意見 3 - 6 は、基本計画全体（事業評価）で、「事務事業評価の見直しの手法」をご提案いただいた。現在の評価手法も完璧ではないと認識しており、提案については今後の参考とさせていただく。
- ・ 意見 3 - 7 は、基本計画の工業の振興で、「基本方針にある『工業団地などへの誘致』が施策・事業に見当たらない」とのご指摘であった。これらは、担当部署の業務の一環として行うものであるため、掲載していない。
- ・ 意見 3 - 8 は、基本計画の交通環境の整備で、「基本方針にある『公共施設を結ぶ交通手段の検討』が施策・事業に見当たらない」とのご指摘であった。これらについても、担当部署の業務の一環として行うものであるため、掲載していない。
- ・ 意見 3 - 9 は、基本計画の健康づくり施設で、「ふれあい館などの管理運営の優先度が 5 - C となっているが、D に下げるべきでは」とのご意見だった。現時点で将来的な施設の利用方

針が決定されていないため、現状の市民サービスの維持という観点から C と評価している。

- ・ 意見 3 - 10 は、基本計画の安全・安心なまちづくりで、「基本方針にある『地域防災計画の策定及び防災マップの作成』が施策・事業に見当たらない」とのご指摘だが、下野市地域防災計画が平成 19 年 3 月に策定されており、防災マップも含まれている。
- ・ 意見 3 - 11 は、基本計画の協働のまちづくりで、「基本方針に『男女共同参画』への言及がない」とのご指摘であった。男女共同参画社会実現への姿勢をより明確にするため、加筆して対応したい。
- ・ 意見 3 - 12 は、基本計画の行財政運営で、「『行政改革の推進』の優先度が 3 - B となっているが、A の評価が妥当」とのご意見だった。事務事業評価の原則として、方策に見直しの余地がある場合は B としているが、当然のことながら、行政改革の推進を弱めるものではない。

(中村会長) 市民から寄せられたパブリックコメントと、それに対する市の考え方の対応について説明を頂いた。これについてご意見があれば、うかがいたい。パブリックコメントは、今後の実施計画の策定等において、貴重な意見となるものである。

(各委員) 意見なし。

(中村会長) それでは、議事 2 を受けての修正ということで、議事 3 に移りたい。

### 3) 総合計画基本構想・基本計画(案)の確定について

(事務局) 資料 1 の基本構想・基本計画修正(案)について説明する。

#### 基本構想・基本計画修正(案)について説明(資料 1)

- ・ パブリックコメントの意見を受けて、2 件の修正をした。
- ・ 基本構想 9 ページ、文中及び表「経済規模の見通し」の中の人口の有効桁数を、3 桁に統一した。
- ・ 基本計画の 46 ページ、「6(1) 協働のまちづくりの推進」の基本方針に、「男女共同参画社会」の文言を追加した。

(中村会長) 非常に細かく見ていただいた結果である。9 ページの人口推計の数字を修正したということである。工業や商業の桁数はこれでよいか。何かご意見があれば、うかがいたい。

(各委員) 意見なし。

(中村会長) 2 つ目、46 ページの「男女共同参画社会」という文言の追加について、了承ということによろしいか。

(各委員) 異議なし。

- (中村会長) では、文言を追加する。
- (事務局) この修正を踏まえたものが、資料2の「下野市総合計画(案)」となっている。この案を12月議会に上程したい。今回、基本構想と基本計画に、82ページ以降の附属資料を添付して完成版としたが、その附属資料の修正をお願いしたい。82ページの「下野市財政のすがた」の表の一番下の行を削除し、また、本文の2行目後半以降「総合計画……」の文末までを削除いただきたい。
- (中村会長) 附属資料では、91ページの「策定経緯 審議会の審議経過」など、われわれの痕跡を詳細に掲載していただいた。99ページ以降の関連用語集も市民の視点に立てば役立つものである。確認だが、下野市の場合は、総合計画基本構想案・基本計画案として、議会に上程するのか。
- (事務局) その通りである。
- (中村会長) それでは、附属資料を含めて、これで総合計画基本構想案・基本計画案の確定ということよろしいか。
- (各委員) 異議なし。
- (中村会長) 審議会として意見がまとまり、お礼申し上げます。

#### 4) 答申書(案)について

- (事務局) 当方で作成した答申書(案)を朗読させていただく。  
<答申書(案)の朗読>
- (中村会長) まず、私が文案を作成して、事務局と相談した。私としては、議論の経緯を踏まえて、総合計画基本構想案・基本計画案の文言を盛り込みたかった。答申書(案)に「別添のとおり」とあるが、これは総合計画基本構想案・基本計画案を指しているのとにかくまず読んでほしいという思いをこめた。
- (野田委員) 「積み重ねてきたのである」を、「積み重ねてきたところである」としたほうが、日本語の響きとしていいと思う。
- (石田委員) 「実施を切に望む次第である」との言葉の裏に、今後とも市民への教育も兼ねて、協働を進めて行っていただきたいという思いがある。

#### 5) その他

- (事務局) 会議録の確定の方法を確認していただきたい。通常であれば、次回会議の際に確定となるが、今回は最終回である。まず、各委員に会議録の案をお送りする。それに対して、各委員で修正があれば事務局まで個別に提出いただき、修正箇所をとりまとめたものを今回の会議録署名委員である大貫委員と金子委員にお示しし、最後に中村会長にご確認いただく

という方法である。この方法でよろしいか、確認をお願いする。

- (各委員) 異議なし。
- (中村会長) 私からの提案であるが、先ほど石田委員からもご意見があったが、この基本構想案、基本計画案に対する委員の個々のご意見、ご感想を最後に自由にお話いただきたい。
- (岡田委員) 初めての新市の総合計画ということで、担当部局や関係する方々が気合を入れて作成されたことと思う。ただ、会議の方法について、もっと工夫をしていただきたかった。パブリックコメントの意見も3名だけであったが、もっと多くの意見が出てくるように誘い込むような工夫が必要ではないか。旧南河内町で総合計画を作成したときに、平日夜にワークショップを開催したところ、サラリーマンや自営業者が参加した。このように、これまで各町で工夫してきた市民参加の方法があるので、それをさらに積み重ねて実施してほしい。
- (金子委員) こういう機会に初めて参加して、勉強させていただきよかったと思う。例えば「シティ・セールス」という言葉を初めて聞いたが、用語集に載っていない。可能であれば、追加をお願いしたい。
- (事務局) 文言をお任せいただければ、追加は可能である。
- (中村会長) では、宜しく願います。
- (柴山委員) 要望になるが、農業問題について、行政側から行動を起こすことは難しいと思うが、外部の農業団体などと協力してやってほしい。特にこの地域は、農業団体がJA小山とJA宇都宮に分かれている。今後の事業展開は、協力して進めていただきたい。
- (石田委員) この計画には、具体的に明記されていないいくつかの問題がある。新市庁舎の問題、小山広域と宇都宮広域に分かれている問題、ごみ処理場の問題、区画整理の問題など、過去の約束などに縛られるいろいろな問題がある。これらの問題解決には、市民を味方につけるようなやり方をお願いしたい。きれいごとだけではなく、痛みを分かち合うことを市民に理解してもらいながら進めていけるようなプロセスをお願いしたい。市民は、議員が何とかしてくれる、市が何とかしてくれると思っているところがある。ホームページなどで、皆で広範に検討するか、懇話会のようにある程度絞った市民と検討するのかなど、方法は様々だと思う。また、行政改革を進めていく必要がある。下野市は、地方のなかでは画期的に進んでいると思う。3町合併をチャンスと捉えて、町民から市民に成長していく必要がある。失敗を恐れず進めてほしい。
- (高山和委員) 何も分からず参加させていただいたが、大変勉強になった。これまでと違った見方ができるようになったと思う。中身に関しては、もう少し踏

み込んでいただきたいところもあったが、全体を網羅した計画であるということで理解している。後は、絵に描いた餅にならないようお願いしたい。また、審議会の委員に応募するとき、開催時間帯が平日の昼間であることにはかなり躊躇した。次回募集する際には、平日昼間の開催になることをはっきり明記していただければ、もっと参加しやすかったと思う。可能であれば休日や夜間の開催も考えていただけたら、もっと違う市民の参加も得られたと思う。

(大貫委員) 市民のシルバー世代の代表として参加したつもりである。素晴らしいものができたと考えている。今後、具体的に実行されるようお願いしたい。また、懇話会メンバーが熱心に議論された結果が、どのように反映されたかをフィードバックしていただきたい。

(高山ト委員) 初めて参加した。女性団体連絡協議会の代表として意見を言わなければならない立場ではあったが、難しくて、それほど意見を出せなかった。とてもいい勉強になったので、また機会があれば、ぜひ参加させていただきたい。

(加藤委員) 勉強させていただいた。総合計画懇話会のメンバーでもあったので、審議会委員となることに躊躇した面もあった。懇話会委員でも、会議以外の日でも集まって一生懸命議論した。パブリックコメントでも市民から熱心な意見が集まっており、意識が高いことを改めて確認した。まちづくりセミナーでは、熱心な市民が集まっている。この芽をつまないように、市にお願いしたい。

(高田委員) 農家の立場から参加したが、あまり意見は出せなかった。現状として、農業は衰退の一途をたどっている。後継者を確保するための方策をいろいろ検討しているが、農家だけでは解決されない問題である。市民が農業を特別視せず、現状を理解してもらうような教育をお願いしたい。また、下野市は合併して2年経たないところであるためか、役所の事務について、3町のやり方が一本化されていないように感じる。早く改革していただければ、下野市の発展に繋がると思う。

(伊澤敬委員) 教育界を代表して参加した。学校の耐震強化などは子どもの命に関わる面があるので、財政規模を考慮しながらも、なるべく優先順位を上げて実施していただきたい。新庁舎建設等については、将来を見据えた慎重な対応をお願いしたい。

(野田委員) 審議会では、素晴らしい委員の方々の素晴らしい意見を拝聴させていただき大変勉強になり感じ入った。行政は、議会という間接機関を置いた間接民主主義でやっている。市民の意向が直接反映されない嫌いがある。直接民主主義を志向する傾向があるが、時間やコストがかかる。しかし、

パブリックコメントなど、今後は直接民主主義的手法を取り入れていく必要があると感じた。

(伊澤剛委員) 議会からの選出で参加させていただいた。多種多様なご意見があると身にしみて感じた。行政はいろんな分野で計画を作成しているが、作っただけで計画倒れになっている面があるように感じる。今後は、個別の施策に落とし込んで実施していただきたいと考えている。

(須藤委員) 私も議会からの選出で参加させていただいた。いろいろな意見をいかに市政に反映していくか、総合計画をいかに具体的に進めていくかを考えている。副市長や担当部長には、地域に出て地域の意見を吸収することをどんどんやっていただきたい。将来の下野市を担う若い職員の方々には、自分の意見を上司や私たちにどんどん言っていただき、それを反映させて進めていきたい。

(中村会長) いろいろな意見をいただき、感謝申し上げます。地方自治の一研究者として、勉強させていただいた。議会の代表の方、各団体の代表の方、公募の方、市の事務局の方、コンサルタントの方の共同作業であったと思う。再度、感謝申し上げます。これで閉会とさせていただきます。

<休憩>

#### 審議会長からの答申

(事務局) それでは、中村会長から市長に答申をお願いしたい。

(中村会長) われわれの審議会は共同作業の場であった。これで終わりではなく、総合計画を作成した時点がスタートだと思っている。着実な実施をお願いしたい。

(事務局) 先ほど、各委員からのフリートークもあったが、市長を始めとして各部長が揃っているので、改めて意見があれば、出していただきたい。今後の予定として、総合計画案を12月の議会に上程することを予定している。

(各委員) 意見なし。

(事務局) では、広瀬市長からお礼の挨拶をさせていただきます。

(広瀬市長) 今、中村会長からもお話しいただいたが、今日は下野市にとって大黒柱となるものを答申として預らせていただいた。新しい市の形が少しずつできていると感じ、本当にありがたいと思う。今日、将来の下野市を担っていく小学生に対するメダルの授与が全小学校分終了した。渡しながら、この子供が下野市をどのように育ててくれるのか、私たちは、この子供が成長していく環境をしっかりとしたものにしていかなければならないと感じた。一人ひとりと握手して、子どもたちの力強さを感じた。

この子達の将来に、下野市をいい形で渡していきたいと思う。更なる発展をしていくベースとなるのが、この総合計画だと考えている。みなさんのご苦勞に感謝したい。

(事務局) これで審議会を終了させていただく。

以上